

猿 橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

人生を歩んでいくための力

校長 磯部 裕之

今年の運動会が行われた前の週に、私が教員になって初めて担任した子どもたちからのお誘いがあり、同窓会に参加してきました。実に、36年ぶりの再会です。子どもたちと言っても、当時5年生だった子どもたちは、みんなもうすぐ50歳という年齢になっていました。

昨年の秋に案内が届いた時には、担任としてきちんとみんなの前に立てるか不安もあったのですが、ありがたかったのは、私とやり取りしてくれた幹事のA君の心配りでした。5年生のときの1年間だけしか担任しなかった私が、「あまり当時のことを覚えていないかも」と不安を伝えると、卒業アルバムの写真と名前の入った手紙を送ってくれました。そして、当日が近づいてくると、会場へのアクセスやタクシーの手配など、本当に細かく対応してくれました。

36年ぶりの子どもたちとの再会は、本当に心温まるものでした。母校のPTA会長になっている子、育成協議会の会長になって「おれ、感染症で中止になっていた餅つきを復活させたんよ」と話す子、「先生、あの時は、反抗的で迷惑かけてすみませんでした」と謝る子（「いやいやこちらこそ」とお互いに謝り合って来ました）、「先生の車、体育館の屋根から雪が落ちて壊れたんだったよね」と忘れていた話を思い出す子、この日のために千葉や愛知から帰郷して参加してくれた子、本当に、みんなそれぞれ立派になっていて、感謝と感激のひと時でした。



毎月、定例で開催される校長会の席で、教育長さんがよく話される「人生の基礎は、小中学校の義務教育でつくられる」という言葉を思い出しました。この子たちと私がかかわったのは、わずか1年間ですが、小中学校でしっかりと学びを重ねて、一人一人が立派に成長していました。

学校は、もちろん勉強するところですので、学習が中心です。でも、人生を歩んでいくそのための基礎を毎日学んでいると考えると、その一日一日の価値や意義はとても大きいと思います。

先日、ある教育冊子でこんな記事を目にしました。

対外的に評価を受けている日本人の善さをつくり上げたのは、紛れもなく戦後の学校教育に負うところが大きい。時間を守ること、きちんと並んで順番を待つこと、ゴミを散らかさないこと、食べ物を大切にすること、人には優しく接することなど、どれも学校で教師から繰り返し指導されてきたことばかりである。

学校生活の中では、毎日、いろいろなことが起きます。時には、困ったり悩んだりすることもあるでしょう。でもそれを乗り越えて、子どもたちは、社会に出るために必要なことをひとつひとつ身に付け学んでいくのだと思います。

1学期も残り1ヵ月となりました。これからも、人生を歩んでいく力がしっかりと子どもたちに身に付くように、一緒に進んでまいりましょう。